

課題研究

必修 3単位

蒲地 啓子・小山 惠美子・清水 静海・
魚山 秀介・坂本 和良・神田 基史・
五十嵐 義征・荒巻 恵子・細戸 一佳・
杉坂 郁子・赤堀 博行・鈴木 康仁・
藤井 靖史・町支 大祐・中村 雅子・
前島 正明・爲川 雄二・杉山 正宏

1. 授業の概要(ねらい)

<A類学生>

最終年次に、1年次の「基礎研究」「教科指導研究」「学校運営研究」における実習や共通基礎科目・高度化実践科目での学びを通して設定した自己の実践的研究課題の解決を図るために、連携協力校において自ら企画・立案した解決策に基づいて実践に取り組み、その成果を実証的、論理的に分析し、総合的に考察した上で報告書としてまとめる。

<B類学生>

1年次に、広い視野から自己の研究課題・研究計画を設定し、理論と実践の往還を図って臨床的に実践・研究し、その成果を実証的、論理的に分析し、総合的に考察した上で報告書としてまとめる。課題によって連携協力校・実習機関の実習担当者及び大学教員による継続的指導、大学教員による巡回指導を受けて、理論と実践の往還を図る実践的研究活動を行ってもよい。

授業では、主体的に学習を進められるよう、グループ活動やディスカッション、発表の場を多く設定する。また、主担当と綿密に打ち合わせを行い、主体的に討論を行うことで報告書の完成度を高める。

2. 授業の到達目標

<A類学生>

・明確化した実践的研究課題を、連携協力校などにおいて、臨床的に計画・実践することを通して究明し、その成果を論理的・分析的に評価し、次の実践に結びつけて創造的に展開できる柔軟な課題解決力、教職の専門家としての実践力(対応力)及び実践的研究能力を身につける。

<B類学生>

・幅広い視野から学校教育課題を自己の課題として設定し、実践を通して究明する中で、具体的な事実(エビデンス)に基づいて理論と実践の往還を図ってコーディネートする能力、協働による実践を通じて課題解決を図る先導的な課題解決力、更に、専門的・実践的な知識と技能を有し学校や教員に対して的確にアドバイスできる指導助言力、そしてその基盤となる実践的研究能力及び実践力(対応力)などを身につける。

3. 成績評価の方法および基準

連携協力校等における年間を通じた取組、課題研究担当教員との協同研究の様子、連携協力校等からの評価(30%)、実習記録、課題研究報告書(50%)、課題研究発表会での成果(20%)等を目安・参考として、総合的に評価する。

4. 教科書・参考文献

教科書

特になし

参考文献

適宜紹介する

5. 準備学修の内容

参考となる基礎研究や先行研究に関する授業記録や教育論文、書籍や報告書等を随時読み、究明、課題解決の示唆を得るよう努めること。

連携協力校における実習等の省察の成果、参考となる基礎研究、先行研究等に関する授業実践や教育論文、書籍や報告書等を読み、究明、課題解決の示唆を得るよう努めること

6. その他履修上の注意事項

「基礎研究」「教科指導研究」「学校運営研究」等で取り組んだ実習等の成果、反省を踏まえ、自己の課題研究のテーマを検討、計画し、その明確化に努めること。

計画的、継続的に実習を積み重ね、適宜、理論と実践の往還を図りつつ分析・考察し、その成果を文章化すること。また、課題研究報告書がまとまった段階で指導を受け、再検討した上で提出できるよう、見直しを持った取り組みに努めること。

7. 授業内容

【第1回】

原則として、B類学生は1年次に、A類学生は最終年次に実施

1 主な実習内容

<A類学生>:「基礎研究」、教科指導研究」「学校運営研究」における実習や共通基礎科目・高度化実践科目での学びの成果及び連携協力校における授業等を通して、自己の実践的研究課題を明確化・設定して、それを究明、解決するための計画を立てる。

<B類学生>:これまでの授業実践や実践研究等を分析・考察し、自己の課題を設定、計画化して、理論と実践の往還を図って臨床的に追究する道筋や方法を理解する。

2 実習方法

- ・課題を設定するために連携協力校における実習を振り返り、省察する。
- ・学生の課題意識によっては、異校種や教育関係機関での実習も検討、計画する。
- ・課題の設定に当たっては、学生と実習校担当教員、課題研究担当教員、連携協力校の実習担当教員との打ち合わせ、指導の機会を適宜設定、実施する。

【第2回】

<A類学生>:「基礎研究」「教科指導研究」「学校運営研究」における実習や、共通基礎科目・高度化実践科目での学びの成果及び連携協力校における授業等を通して、自己の実践的研究課題を明確化・設定して、それを究明、解決するための計画を立てる。

<B類学生>:これまでの授業実践や実践研究等を分析・考察し、自己の課題を設定、計画化して、理論と実践の往還を図って臨床的に追究する道筋や方法を理解する。

- 【第16回】
- 1 主な実習内容
- ・自己の設定した課題等について実践的に究明し、報告書を作成
 - ・教育現場の実情を踏まえた調査研究とその分析
 - ・自己の設定した実践的課題に基づく実習と研究
 - ・広い視野から設定した場合の課題(例)
 中学校・高等学校・特別支援学校等における教育活動の観察や実際
 幼稚園、小中一貫校、中高一貫校の教育活動の特色や成果・課題の把握
 教育委員会制度・地方自治に関する理解及び指導行政にかかる実務等
- 2 実習の方法
- ・実習は、原則として連携協力校で行う。ただし、設定した課題によっては、異校種の一貫校や特別支援学校、教育センター、教育委員会等で実施する。
 - ・実習は、設定した課題に基づいて、連続型、分散型(毎週1日程度)のスタイルを取る。
 - ・学生は、自己の設定した実践的な研究課題、研究計画に基づいて実習・研究を行う。
 - ・実習の過程や報告書の作成において、学生、実習校担当教員、課題研究担当教員、連携協力校の担当教員等による打ち合わせ、指導の機会を、適宜設定、実施する。
- 【第17回】
- ・自己の設定した課題等について実践的に究明し、報告書を作成
 - ・教育現場の実情を踏まえた調査研究とその分析
 - ・自己の設定した実践的課題に基づく実習と研究
- 【第18回】
- ・自己の設定した課題等について実践的に究明し、報告書を作成
 - ・教育現場の実情を踏まえた調査研究とその分析
 - ・自己の設定した実践的課題に基づく実習と研究
- 【第19回】
- ・自己の設定した課題等について実践的に究明し、報告書を作成
 - ・教育現場の実情を踏まえた調査研究とその分析
 - ・自己の設定した実践的課題に基づく実習と研究
- 【第20回】
- ・自己の設定した課題等について実践的に究明し、報告書を作成
 - ・教育現場の実情を踏まえた調査研究とその分析
 - ・自己の設定した実践的課題に基づく実習と研究
- 【第21回】
- ・自己の設定した課題等について実践的に究明し、報告書を作成
 - ・教育現場の実情を踏まえた調査研究とその分析
 - ・自己の設定した実践的課題に基づく実習と研究
- 【第22回】
- ・自己の設定した課題等について実践的に究明し、報告書を作成
 - ・教育現場の実情を踏まえた調査研究とその分析
 - ・自己の設定した実践的課題に基づく実習と研究
- 【第23回】
- ・自己の設定した課題等について実践的に究明し、報告書を作成
 - ・教育現場の実情を踏まえた調査研究とその分析
 - ・自己の設定した実践的課題に基づく実習と研究
- 【第24回】
- ・自己の設定した課題等について実践的に究明し、報告書を作成
 - ・教育現場の実情を踏まえた調査研究とその分析
 - ・自己の設定した実践的課題に基づく実習と研究
- 【第25回】
- ・自己の設定した課題等について実践的に究明し、報告書を作成
 - ・教育現場の実情を踏まえた調査研究とその分析
 - ・自己の設定した実践的課題に基づく実習と研究
- 【第26回】
- ・自己の設定した課題等について実践的に究明し、報告書を作成
 - ・教育現場の実情を踏まえた調査研究とその分析
 - ・自己の設定した実践的課題に基づく実習と研究
- 【第27回】
- ・自己の設定した課題等について実践的に究明し、報告書を作成
 - ・教育現場の実情を踏まえた調査研究とその分析
 - ・自己の設定した実践的課題に基づく実習と研究
- 【第28回】
- ・自己の設定した課題等について実践的に究明し、報告書を作成
 - ・教育現場の実情を踏まえた調査研究とその分析
 - ・自己の設定した実践的課題に基づく実習と研究
- 【第29回】
- ・自己の設定した課題等について実践的に究明し、報告書を作成
 - ・教育現場の実情を踏まえた調査研究とその分析
 - ・自己の設定した実践的課題に基づく実習と研究
- 【第30回】
- ・自己の設定した課題等について実践的に究明し、報告書を作成
 - ・教育現場の実情を踏まえた調査研究とその分析
 - ・自己の設定した実践的課題に基づく実習と研究